

# 北翔大学大学院で学ぶみなさんへ

## ～学長からのメッセージ～

北翔大学

学 長 山 谷 敬三郎 Keizaburo Yamaya



感染症法で5類に変更になった新型コロナウイルス感染症にインフルエンザとマイコプラズマ肺炎が加わり、「トリプルデミック」の流行が懸念された2025（令和7）年の新春でした。気を緩めずに、感染拡大防止のために私たち一人ひとりが出来ることを着実に行っていきましょう。

北翔大学大学院は、2001年に人間福祉学研究科修士課程を開学してから今年で24年目を迎えます。2021年4月には、生涯スポーツ学研究科に博士後期課程を設置し、昨年3月には初の博士号を取得した2名の学生が、本年3月には4名の学生が社会に巣立っていきました。建学の精神にある「自立できる社会人の育成」を基本にした高等教育機関で学んだ300名を超える先輩達が、北海道はもとより、日本全国の各地で研究者、あるいは高度専門職業人として活躍しています。こうした本学大学院のこれまでの実績に対して、地域社会からは多くの信頼と期待が寄せられています。

本学大学院は、臨床心理学専攻を有する「臨床心理学研究科」と生涯学習学専攻を有する「生涯学習学研究科」、そして、生涯スポーツ学専攻を有する「生涯スポーツ学研究科」で構成されています。特に、生涯スポーツ学研究科の後期博士課程は北海道はもとより、関東圏以北唯一のスポーツ科学に関する研究科です。3研究科とも、高度な専門性を有する専門職業人、あるいは研究者として社会で活躍できる深い教養と高度な研究能力を身に付けることができる教育内容でカリキュラムが編成されています。

大学院は、これまで皆さんが大学生活でまとめてきた研究課題をさらに深化させ、研究者として社会の発展に寄与する能力を身に付けるために学修・研究する場です。また、社会人として入学してきた人にとっては、自身の職業を通して遭遇した課題を原理・原則に遡って解明するための学修・研究する機会ともなります。高学歴社会の現代において、高等教育機関には、高度な専門性と問題解決能力を身に付けた人材を養成することが求められています。したがって、多くの大学では学部教育の充実とともに、大学院教育の充実にも重点を移しつつあります。大学院において、高度な専門性と研究能力を身に付けるには、その基盤として、幅広い、かつ深い教養や倫理観の学修も必要となります。それは、研究者の研究成果はその人の人格をも表すとも言われているからです。自身の研究テーマとそれに関連する多くの先達の研究成果に触れ、その業績を認める力と新たな課題に取り組む姿勢を大切にしてほしいと願っています。

この「学生便覧」は、皆さんが大学院生活を送る上での手引きであり、社会に出てからも皆さんの学修の履歴を確認するためのものでもあります。どのような科目を履修し、社会でどのように活躍するのか、どのような学生生活を送るのか、この便覧をもとにして学修計画を練り上げてください。

最後に、本学は、「愛と和と英知」を教育理念として教育活動を展開しています。これは学生にだけ求めるものではなく、教職員一人一人にとっても大切な理念です。その理念を共有して、皆さん一人ひとりが夢や希望の実現に向けて実りある大学院生活を送ることを支援したいと考えています。